

聖陵 Sei-Ryou

2007.3 Vol.10

盛岡大学聖陵同窓会報

発行者／盛岡大学聖陵同窓会

事務局／〒020-0183

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込808 盛岡大学内

電話019-688-5555

ホームページアドレス

<http://www.morioka-u.ac.jp/seiryou/index.html>



これまでに発行された同窓会報「聖陵」



旧校舎 厨川校舎
(現盛岡大学附属高等学校)



現校舎 (滝沢村砂込校舎)

CONTENTS

会長あいさつ	1
学長あいさつ	2
副会長あいさつ	2
特集 旧教職員座談会	3~6
生協リニューアル	7
野球場完成	7
卒業生は今 !!	7
インフォメーション	8
事務局だより	8
サークル活動報告	8
編集後記	8

盛岡大学の今

同窓会長

菅 原 元

(一期生 児童教育学科卒
学校法人盛岡大学 評議員)



同窓生の皆さんお
元気でお過ごしで
すか?

この聖陵同窓会報

も節目となる十号を

迎え、皆様も手にされて御覧頂いてる
瞬間は懐かしさと成長した大学を嬉しく
感じられている事でしょう。

今年度、盛岡大学では大学の顔である園井新学長並びに高橋新学部長を迎
えられ、また新たなページを切り開こうとしています。

更に経営面においてもかつての負の遺産を払拭して健全経営に向かっていることも間違ひありません。

昨今の聖陵同窓会は、新図書館建設、在校生大会遠征、さんさ踊り等の補助を通じて大学を支援して参りました。

今後は可能な限り会員相互の交流の場作りを提供したいと考えています。

自分自身『全力少年』を過ごしたこの母校盛岡大学をいつまでも誇りに思える同窓生であります。

今後とも大学と聖陵同窓会を温かく
ご支援よろしくお願いします。

大人の学生を育てる



昨年九月一日付で盛岡大

学学長に就任した園
井英秀です。縁あつ
て本学の舵取り役を
務めることになりま
した。皆様のご支援を

どうぞよろしくお願ひいた

します。北東北の地はさまざまな魅力を秘め
ていますが、特に美しく雄大な自然、古風な
人情、そして豊富な温泉にはいたく満足して
います。なかでも、学長室の窓一面に広がる
岩手山の、厳しくまた寂しく変容する姿を毎
日眺め、飽きることはありません。

さて、今回はこの機会に、大学教育のある
べき姿について、所感を述べさせていただき
ます。大学教育の基本をなす精神は教養教育
にあると考えます。教養教育とは、専門科目
を学ぶ準備としての教養科目のことではなく、
人格形成に必要な素養を身に付けるという意
味で申しています。むろん大学教育では専門
教育を受け専門性を身に付けることが教育の
柱ですが、いまひとつ柱が教養の涵養にあ
ることを学生自身あまり関心を持っていない
ようと思われます。大学教育において専門性
か教養かいずれが重要かと問われれば、わた
くしはためらわざ教養を身に付けることのほ
うだと答えるでしょう。

教養とは知性を備えた人間らしさともいえ
ます。日常的な行為として見れば、道理をわ
きまえている、常識を備えている、社会的ル

ールを守る、異なる価値観や考え方を理解す
る寛容さを持つ、浅はかな独断に陥らない、
欺瞞や破廉恥な行為をしない、権利をいう一
方で義務も忘れない、知的な判断をするこ
とができる等、その他いくらでも例示ができる
ような態度として現れるものだということに
なります。

大学教育においてこの必要性を改めて言う
ことは年令的に実は少々遅いのですが、遅れ
ばせながら大学でこれまでの教育的欠落を
補う必要があると考えています。大学に入学
し、それぞれの教育コースの特色に従い、専
門的知識や技術あるいは資格取得を目的とす
ることは当然のことであり、それが大学教育
の現実的な成果として達成されるべき目標で
す。この目標達成同時に、教養を身に付け、
一人前の人間として世にでる訓練を行うこと
もさらに重要な義務であると考えます。昨今
の末世的な世相——いじめや自殺、肉親同士の
犯罪、人を騙すあくどい犯罪等には、教育的
欠陥がその背景にあります。この意味では、
教養を身に付けることはもはや教育的課題で
はなく、人間が人間らしく生きゆく原点を示
しているとさえいえます。盛岡大学ではこの
点を意識的に踏まえた教育を行いたいと考え
ています。ご理解を賜りますようお願いいた
します。

今年度、学生達は「さんさ踊りパレ
ード」に参加し二年連続熱演賞を受賞
しました。「天まで燃えよ盛大さんさ」
をキヤッチフレーズに総勢二百十三名
の素晴らしい踊りで観衆を魅了しました。
また、砂込キャンパス内に大学野球部
の練習場が完成し披露式が行われました。
監督、選手一同念願の専用グラウンド完
成に感謝し、一部昇格実現に向け決意
を新たにしました。

同窓会では、頑張っている後輩達を
多方面からバックアップし、皆様と大
学の絆を深める会報制作を続けていき
たいと思います。これからも同窓会の
皆様からのより一層のご理解ご支援ご
協力をよろしくお願いいたします。

「天まで燃えよ盛大生」



同窓会副会長 下河原 憲治
(一期生 英米文学科卒)

同窓会の皆様に
おかげましては、
益々ご健勝のこと
とお喜び申し上げま
す。

記念すべき第十号を発行する事がで
きました。これも偏に会員の皆様のご
支援ご協力の賜と心より感謝申し上げ
ます。

この度聖陵同窓会では、同窓会報
の記念すべき第十号を発行する事がで
きました。これも偏に会員の皆様のご
支援ご協力の賜と心より感謝申し上げ
ます。この度聖陵同窓会では、同窓会報
の記念すべき第十号を発行する事がで
きました。これも偏に会員の皆様のご
支援ご協力の賜と心より感謝申し上げ
ます。



同窓会副会長 瀬川 智子
(一期生 児童教育学科卒)

盛岡大学一期生
としてスタートし
たのは昭和五十六
年の春。当時、学生
は百人弱。そして、盛岡市厨川の校舎
が私達のキャンパスでした。小規模ゆ
えに、先生方、事務の方、守衛さんと
もすぐに打ち溶けたもの。狭い駐車場
では、バーレーボールやテニスもしました。

本当にのんびりムードで過ごしていました。

今は、広々とした砂込キャンパ

スに大人数の学生。マイカー通学、携

帯電話、パソコン持参も当たり前。私達

の頃とは考えられない程ハイテクになり、

時代の変化を感じます。さて、この会

報も第十号を迎えたが、毎回拝見

する度に、大学の「今」や、各方面で

ご活躍している教授や卒業生の近況を

知ることが出来ました。同窓生相互の

親睦を計ることは、なかなか容易では

ありませんが、だからこそ、この会報が、

大学と卒業生をつなぐ架け橋の役割を

担ってくれたらと願っています。発行

にあたり、多くの方々のご協力を得て

きたことに感謝しつつ、更に充実した

ものになつていくことに期待してます。

副会長あいさつ

大学と卒業生をつないでいる 聖陵同窓会報:

「天まで燃えよ盛大生」

大学と卒業生をつないでいる 聖陵同窓会報:

特集

「聖陵」第十号を記念して厨川校舎時代からお世話を伺いました。

旧教職員座談会



◆参加者の紹介

◆高橋 富雄先生
学長
昭和60年4月～
平成10年3月

◆金子 工ヰ先生
文学部専任講師
昭和57年4月～
60年3月

◆北本 和子先生
文学部教授
昭和57年4月～
平成6年3月

◆角谷 晋次先生
文学部教授
昭和57年4月～
平成11年3月

◆牛越 恭先生
文学部教授
昭和60年4月～
平成15年3月

◆柳沢 文昭先生
文学部教授
昭和56年4月～
現在に至る

◆市原 常明先生
文学部助教授
昭和59年4月～
現在に至る

◆下河原 憲治
(司会)

Theme

1

厨川での創立時代

下河原(以下、司会) 最初に大学創設当時の思い出を語っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

高橋富雄先生(以下、高橋) 私がこの大学を辞めさせていただく時には「再び盛岡の土を踏むことはないかも知れない」という気持ちでお別れしました。縁あって、こういった大事な集いに参加することになりましたことを感謝いたします。内村鑑三

は武士道とキリスト教徒の関係について、武士道に追記されたキリスト教が、キリスト教としていちばん立派だったといったことを書いておられます。私は、仙台の国立大学生活の後、盛岡大学にお招きいただきました。娘の通うミッションスクールの後援会でキリスト教に関わったことはありました。盛岡大学に来てみると「かなり違う」感じがしました。「生活の中にキリスト教が格好をつけずにしっかりと根を下ろしている、何となくそういう雰囲気を作っている学校ではないか」という感じがしました。「何十年の勉強生活を、ここで新しく再スタートできそうだ」という印象を率直に持つた次第です。ここに関係しているらしくなる先生方・職員の方々、学生の大部分は「ノンクリスチヤン」だと思います。でも、「ノンクリスチヤン」の人たちの中にも、ちゃんと話し掛けるキリスト教のようなものが、何か生活の中で息吹いている感じがして、私自身としては本当に嬉しい気持ちになりました。文化の中での異質なものとの出会いを、むしろアイデンティティとして「自分がこういう人たちであることが、自分の本来のあり方ではないのかな」というところに導いていたいたい感じがしました。盛岡大学での生活が勉強〔學問〕というものを、生活の中から鍛え直すような鍛え方。私としては勉強し直すような十年間になつたと思います。

「ノン・クリスチヤン」という言葉がありますが、逆説的について「ノン・イエス・クリスチヤン」という言

金子工ヰ先生(以下、金子) 私もクリスチヤンには縁が遠かつたものですから、最初に生活短大にお勤めして、職員で礼拝の司会を担当することになりました。その頃の礼拝は学科ごとにありその様子を見ながら、学生といつしょに聖書を考え礼拝をしていました。

交際で司会をなさつてゐるのを、身近に見ている立

そうではないというのが「イエス」にかかる。「かろうじて、それがキリスト教的なんだ」という意味で、盛岡大学は「ノン・イエス・クリスチヤンスクール」という言い方をして、「クリスチヤン」であるか、「ノンクリスチヤン」であるかということを問題にせず、生活の中でそれを生きていけるような大学で少なくともあつてほしいと思います。また、私が教師としてここにお世話を限ります「そのような大学に育てていきたいな」という気持ちでした。

角谷晋次先生(以下、角谷) 私は今、盛岡仙北教会の牧師と、教会が運営する仙北町幼稚園の園長を務めています。私の場合、間接的に在校生と細々した関係があります。たとえば、児童教育学科では、幼稚園の実習。短大の児童教育科を毎年教員として受け入れています。また、附属高校の場合は週に1回、村上密好先生の後任で、全校礼拝を担当しています。また、短大の同窓会「アネモネ会」など、間接的ななかわりがあります。私は在職中、礼拝を通して宗教的な関わりをもっていましたし、学長の高橋富雄先生にはお世話をなりました。その頃の礼拝は学科ごとにありその様子を見ながら、学生といつしょに聖書を考え礼拝をしていました。

高橋 富雄先生



場でした。そのうち、生活と共にし、感化されたというか、そういう礼拝の雰囲気が身近に感じられるようになりました。今思えばクリスマス礼拝や卒業礼拝が強く思い出として残っています。去年のクリスマスでクリスマス・チャリティの音楽会がありました。それに参加した時、盛大のクリスマス礼拝で聴いた心に残っている曲が主だったものですから、懐かしく聴いて参りました。盛岡大学での生活で宗教に関わる思い出が、何十年も経った今、強く感じられます。また、たった2クラスで生徒数もそれぞれ50人前後でしたが、一人ひとりが自分の家族のような感じでした。注意するときにも「それじゃダメなんじゃない」と、心と心が通っているような毎日の生活だったように感じます。30年近く経った今でも、強く印象に残っているのは、生徒との交流のことと、教会との交わりでした。

牛越 恒先生（以下、牛越） 私は昭和60年4月

から勤めて、合計20年間お世話をになりました。八幡平校舎には期生が卒業したあとに参りましたので、「期生の方たちのこともよくかがつておきました。それこそ本当に小規模な、地方にある小さな高等学校のように小規模な中で、一人ひとりがふれあうような雰囲気だったと思っておりまします。特に、八幡平校舎での研修には、すごく強烈な印象があるのですが、最初の研修のときに、遅くまで高橋学長先生のお話を聞きました。学生も聞きました。そのお話は、目の鱗が剥がれるような鮮烈な思いを持っております。厨川校舎では、学生一人ひとりが非常に個性的であったということなのです。大学祭やスポーツ祭では、あらん限りのエネルギーを發揮するのですが、それがいつ・どこで勉強していたのか。あとから聞いたことです。ですが、「そういうエネルギーを持っていたんだなあ」と思いました。今更ながら、そういう努力には頭が下がる思いです。

北本 和子先生（以下、北本） 私は21年間、幼稚園の教育に関わって参りましたので大学生の気持ちがなかなか分かりませんでした。しかし、だんだん通つているような毎日の生活だったように感じます。30年近く経った今でも、強く印象に残っているのは、生徒との交流のことと、教会との交わりでした。学生と先生が本当にいっしょになつて何でもやるという感じでした。学生もしょっちゅう研究室に出入りしていました。非常に個性的な学生が多くななかなか分かりませんでした。しかしながら「大学生も幼稚園の子どもも同じなんだな」ということが分かつてきました。それまで、だいぶ時間がかかつたような気がします。初めの頃は2クラスで、学生と先生が本当にいっしょになつて何でもやるという感じでした。学生もしょっちゅう研究室に出入りしていました。非常に個性的な学生が多くななかなか分かりませんでした。しかし、だんだん通つているような毎日の生活だったように感じます。30年近く経った今でも、強く印象に残っているのは、生徒との交流のことと、教会との交わりでした。

北本 和子先生



市原常明先生（以下、市原） 私が盛岡大学に赴任したのは、20代の真ん中ぐらいで正直つて学生とあまり変わらないような部分もありました。盛岡大学の研究室は一人の教員で使うことが多いので、先生方も交流するし、学生たちも先生のところに行つて交流するということで、四六時中、学生と教員が交流する大学だったと思つていました。その中で、学生が教員から影響を受けて、ずいぶんと育つていると思っていました。その教室に聖句があつて、それをどこまで学生たちが見ていたのか、分かりませんが、すべてに感謝して祈つていくといふ、もうちょっと世の中を肯定的に見ていく考えで、いこうという意味だったと思います。今の盛岡大学の魅力には、学生の面倒見がいいところと、先生方と交流ができるというところがあると思いますが、そういう今の魅力の基礎となる相当の部分を作つたのが「厨川の頃だな」と思います。そういう意味で、学生たちの教育にたずさわっている先生方には、非常に感謝している次第です。

柳沢文昭先生（以下、柳沢） 先生方のお話を、先ほどから懐かしく聞いておりました。高橋先生のお話は、昔から得るところが大きいと思っていたのですが、先ほども「したり」と思つてました。たしかにキリスト教の外にいた者ほど、キリスト教的な価値観に敏感であることは、歴史上でもかなり例があります。聖バウロも、最初はキリスト教を迫害する立場にいたけれども、あるときに奇跡を目の

Theme 2 外から見た盛岡大学の印象

司会 次のテーマは「外から見た盛岡大学の印象」です。最初に牛越先生からお願ひいたします。

牛越 大学を辞めてから、それこそ「外から」大学を見ている訳ですが、良くも悪くも盛岡大学が見えてこない。私も努めて盛岡大学については関心をもつていろいろな機会に紹介もしているのですが、盛岡大学についての声がなかなか聞こえてこないと、いうことで、非常に残念だと思います。やはり盛岡大学も、せっかく滝沢村という全国人口の多い村にある訳ですから、そいつた地域の中に入つていつての行事活動なり、学生の活動なり、そういうことをもっと推進してはどうかと考えております。

高橋 私から一言。盛岡大学に勤めているとき、仕事をして、どういう評価を受けているのかについて、意見交換やアドバイスを受けたことがあります。そのとき、「盛岡大学出身の小学校や中学校の先生方は、本当に頼もしい」国立大学などから來ていた先生方よりも、授業や生徒



牛越 恭先生

うのではなくて、素直に生きていくのはいいのですが、これから社会に出て行つてから、たくましく生きるというあたりは、どうなのか。たぶん生きるということは、自分のためよりも、人のために生きていくことで、自分の存在を自覚するところがありますので、そういうとき、社会で生きていく逞しさについては、どうなんだろうかと思います。学生に何かを身につけてもらつて、逞しく生きてもらおうと思うと「難しいなあ」と思います。

牛越 学生の気質の移り変わりについて私は、よく分かることですが、特に私が辞める前後は、学生たちがものすごく真面目だった。私は学生部の窓口におきましたものですから、そこで学生たちとよくやりあつたり話したりしました。「この人たちは、何を考えているか」ということもよく分かること多かつたのですが、この校舎に来てからの学生は、非常に物分かりが良くなつた。でも「本当に分かっているのかなあ」というような危惧も持ちました。やはり一人ひとりの学生たちに個性豊かでバイタリティを持つてもらいたい。厨川校舎の時代には、私が担任した卒業生に先日、会つたときには自分の子どもを5人も引き連れていました(笑)。

学生時代にはすごいバイタリティをもつていた学生でした。また、二戸にいる卒業生は、音楽関係で素晴らしい仕事をしています。それから、北海道にいる卒業生は、現場から引き抜かれて行政に入った人です。先日、手紙をもらいましたが、「行政面での難しさに困つていました」ということでしたが、

柳沢 大学時代というのは、精神的な故郷といふか、魂の故郷だと思います。大学を出て、会社に入る社会に出ると、周りとの妥協を強いられるという面が多々あると思います。大学だけは、その中間にあって、本当に自分でいたことを考えていました。大学時代に感じていたことを考へたことは、永遠に正しいという自信を持っていただきたいと思います。人生の岐路に立たされたときなどは、大学時代の自分を思い出して、そのときの自分に返れば、必ずや道は拓けると確信しています。僕も昔は大学生だったことがあるので、経験からみて間違いないと思います。それがメッセージ

Theme 4 同窓生へのメッセージ

司会 「同窓生へ一言お願いします」

金子 人間形成の上で、いちばん大事な時期に大学生活を送つたということを考えると、「母校のために」とか「自分を作ってくれたのが盛岡大学なんだ」という愛校心を、いつでも抱いてもらつて、これから的人生を続けていただきたいと思います。

北本 『縁』があつて、盛岡大学に勤めさせていただきました。学生とも本当にありがとうございました。学生たちに応援してもらつて、毎日を張り切つて暮らしている気分です。皆さんには「本当にありがたい」とお礼を申し上げたいと思います。

市原 卒業生の皆さんには、それぞれが社会で活躍をしていらっしゃると思うのですが、とても良い時代を過ごされたと思いますので、それを思い起こしながら、もし何かありましたら、盛岡大学にご意見などをぜひお寄せいただきたい。私どもはそれを聞いて、皆様にもご協力を願いたいと思います。

牛越 卒業されている方々については、それぞれの今の自分の就いているところにおいて、誠心誠意頑張つてもらいたいということ。その見本がこの盛岡大学にある。ここにいる卒業生の方たちは、「どうすればいい」「こうすればいい。こうしてくれないか」という、そういう甘えを受け取つて、一生懸命にやつてくれた。それから、在学の学生については、勉学も大変大切で、学生としての横の繋がりであるクラブ活動・サークル活動といったことに、もつと熱中してもらいたいと思います。そういうことから別なエネルギーも生まれてくる。それから、この学校の成り立ちの根源であるキリスト教精神を心の拠り所にするということが、自分の心の平安にも繋がり、ひとつ精神的な土台にもなるのだということを、今一度学校で考えていただきたいと考えております。

角谷 就職した卒業生にたまに会う機会があると、礼拝のことを思い出に話してくださる方もいらっしゃいました。すべての人がキリスト教の生涯にわたる深い関わりはないかもしれません、聖書あるいはキリスト教という世界観にふれたというのは、いろいろな意味で大事なことだと思います。最近、お茶の水女子大学の藤原正彦先生が新渡戸稻造先生の「武士道」という本を取り上げて、「今失われているもののひとつに、新渡戸稻造が書いています。僕も昔は大学生だったがあるので、経験からみて間違いないと思います。それがメッセージ

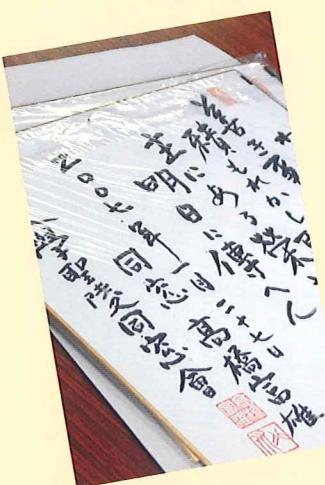
ういう学生たちは、おそらく成績がオール優といふ訳ではないと思いますが、ある一面では燃焼力があると思います。そういう面もあつてほしいと感じています。



角谷 晋次先生

す。普通、地位があつて名譽があれば、次にお金を望むのですが、武士道において、地位や名譽という階級がありました。しかし、「武士は喰へねど高楊枝」で、貧乏に負けなかつた。あるいは「貧すればど鈍せず」ということで、どんなに貧乏であつても品性を保つていた。そういうものが、日本のひとつの倫理としてあつたものでした。そういう意味で、青年時代に異なる思想に出会うという点では、世界的な古典である聖書の精神にふれるということは、非常に素晴らしいことだと思います。こういう混乱した時代だからこそ、聖書にふれていただきたいと思います。

高橋 お粗末ではあります、短歌らしいものを色紙に書きました。やっぱり「学長だ」「理事長だ」「先生だ」というのではなく、「みんながいっしょだ」同じなんだ」という感じをもつと実感できるような集いを、学校でも作つてほい」とから「われらのつどひ」という題にしました。また、こういうふうにも書きました。「善き事の尚積もれかし聖陵の 主にある榮え 明日に傳へん」。この色紙は置いています。私の揮毫でございます。これまで、盛岡大学は良い実績を残してきましたし、現に上げつあると思います。もうひとつ「善き事」を積み上げていてほしい。「善き事」というのは、聖書とかキリスト教というものの照らして「なるほど、我々が生活や勉強の中で、活かしている」ということが実感できるようなことです。「主にある榮え」をみんなが希望や誇りをもち、余所に誇ることのできるような大学にしていてほしい。それが私の願いでございます。



九期生 日本文学科卒
盛岡大学生活協同組合 坂巻秀樹
専務理事

九期生 盛岡大学生活協同組合 坂巻秀樹
専務理事

九期生 盛岡大学生活協同組合 坂巻秀樹
専務理事

九期生 盛岡大学生活協同組合 坂巻秀樹
専務理事



TOPICS
1

生協リニューアル

TOPICS
2

野球場完成

九期生 日本文学科卒
硬式野球部監督 藤澤弘樹

九期生 日本文学科卒
硬式野球部監督 藤澤弘樹



平成十八年十月十四日(土)秋晴れのもと盛岡大学野球練習場完工披露式が久慈理事長をはじめとする大学関係者及び野球部関係者合わせて約百名の出席者により行われました。平成十五年秋に着工し、平成十七年秋より使用を開始しておりました野球練習場でしたが、この度、大學及び短大後援会のご支援もあってダッグアウトと照明設備が設置され、完工となりました。当日は、野球部紅白戦、完工披露式、昼食会の順で進み、披露式では理事長

及び野球部関係者挨拶の他、工事を担当された開成建設様へ感謝状を贈呈し、開成建設様からは記念品を頂きました。

アットと照明設備が設置され、完工となりました。当日は、野球部紅白戦、完工披露式、昼食会の順で進み、披露式では理事長

及び野球部関係者挨拶の他、工事を担当された開成建設様へ感謝状を贈呈し、開成建設様からは記念品を頂きました。



2006年卒業

児童教育学科卒業
村上聰美さん
(岩手県交通
株式会社)

「初めの一歩」

私は短大の幼稚教育科に入学し、その後大学の児童教育学科で学び、現在はバス会社の経理として働いています。一見大学で学んだことが活かされていないようですが、経理の仕事以外にバス案内のため駅前に立つこともありますし、登山バスのチケット売りとして、お客様と接することもあります。大学で沢山の人と出会った経験や、実習で様々な方々と触れ合った体験が、ここで活かされています。もちろん最初は子どもと関わる仕事を、と思い入学しました。それは今でも変わらず、いつか叶えたい夢として大切に温めています。でも今は、バスを通して何かできることはないだろかと考えています。子どもや障害者にもやさしいバスを。大学で学んだ日々を思い出しながら、自分が出来ることを、これからも精一杯がんばっていきたいと思っています。



1991年卒業

児童教育学科卒業
小川尚道さん
(山形県大江町立
三郷小学校教諭)

「苦が転じて福となす」

現在、私は「ピアノ」を習っています。きっかけは今から6年前、5年生のクラス担任をすることになった時のことでした。クラスの女子児童は、約半数がピアノを習っており、レベルも高く、ベートーベン作曲「エリーゼのために」なども流暢に演奏していました。毎週やって来る音楽の授業は地獄そのものでした。私のピアノの腕前といえば、盛岡大学在籍中単位修得のため練習したバイエル100番止まり。一心発起の末、恥ずかしながら塾でピアノを習い始めました。バイエルの曲さえも弾けなくなっていた私は、もう一度始めからレッスン開始。幸い塾の先生が優しい女性の先生であった為、現在も継続して習っています。今弾いている曲は、ベートーベン作曲「月光の曲」。お聴かせなどできるレベルではありませんが、毎週地獄であった音楽の授業も、現在は待ち遠しい教科となっています。



1987年卒業

児童教育学科卒業
大友昇さん
(大昭運輸株式会社
営業部長)

「いま、私は…」

大学を卒業してから20年が過ぎました。あっという間の20年でした。20歳の成人式の日は、新日鉄釜石がラグビーV7の懸かった試合がありました。県民会館の横のラーメン屋で「まーほ」とビール呑みながら見入っていました。卒業して社会に飛び出でてから20年、今こうして原稿を書いています。当年満43歳になりました。

20代の10年間は、仕事をしながらバンド活動に励んでいました。卒業後、偶然知り合ったメンバーとROCKに燃えていました。「WILD TURKEY」です。いいバンドでした。浄土が浜・八幡平県民の森での野外ライヴやベンションでのお泊まりライヴ夏福・冬福。そしてアンホールでのTHE LIVE1992など。良い仲間達と出会えたことが一番の宝ものだと思っています。

30代になり、仕事に没頭することになってしまった訳ですが、人生どうなるかわからないものだと痛感しています。私は学生時代の面影を微塵も見せることなく、スープを織って、営業活動に勤しんでいます。採用の窓口として盛岡大学就職センターには、今でも御世話になっています。盛大と短大含めて6名の卒業生が当社に勤務しています。

盛岡大学同窓会の発展の為に、皆さん協力し合いましょう! 伝統と歴史を刻んでいく時期が盛岡大学にもきていると思って、今日この頃です。



同窓会報校了間際に悲報が入りました。盛岡大学文学部教職課程室長の石亀紀男教授が病気療養中のところ、3月4日(日)午後0時58分に逝去されました。

石亀教授は小学校長定年退職後の平成13年4月に盛岡大学に着任、平成15年4月には文学部教授教職課程室長となられました。優しい笑顔と熱心な指導で多くの学生、教職員から慕われ、最後まで盛岡大学のために尽力いたきました。特に在学時に教員志望であった同窓生の方の中には石亀教授にお世話をされた方が大勢いらっしゃるかと思います。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福を心よりお祈り申しあげます。

プラスバンド部

盛岡大学吹奏楽部 第20回演奏会でのOB・OG演奏

吹奏楽部顧問 飯島 隆

昨年、12月2日(土)午後2時より市民文化大ホールにて盛岡大学吹奏楽部第20回定期演奏会が行なわれ、その中でOG・OB演奏が行なわれました。

当日は35名のOB・OGによる演奏、終了後には懇親会も行われ、そこではかつて吹奏楽部員達であった年代の異なるメンバーが約60名も集まり、楽しく懐かしい交友の場が繰り広げられました。



サークル活動報告

バレー部

OB会活動で強いつながりを

昭和63年度卒 戸羽 太一(OB会長)
平成9年度卒 佐藤 真希

我がバレー部では、時期は様々ですが、記憶をたどれば平成元年から毎年、OB会を開催しています。

現役対OBチームの試合の後は、現役4年生も参加しての懇親会。おいしいお酒を飲みながら先輩、後輩関係なく会話がはずみます。一緒にプレーしたことがなくとも、ここでのふれあいが、バレー部OB・OGとしての絆を確かなものにしています。これからもOB会をとおし、つながりを広げていきたいと思っています。



今、同じ職場で働いています

編集後記 会報10号を記念して座談会を開催しました。久々に懐かしい恩師と語り合え、編集委員をしていくつづくよかったですと感動したひと時でした。これらも編集委員一同、皆様に感動を伝え続けていく所存ですので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

● 盛岡大学では小・中・高の教員向けに専修免許状取得のための「免許法認定公開講座」を年2回開催しています。また、地方自治体や職場など地域の要請にお応えする「出張公開講座」も実施しています。スキルアップを図りたい、懐かしい先生の講義をもう一度受けてみたい、そういうご要望があれば大学事務局総務部まで気軽にお問い合わせください。

● 同窓会では就職(求人)情報募集しています。「対話」を重んじ、人を愛し、共に育ててある盛岡大学の校風を糧に成長している後輩たちに果立ちはの手を差し伸べてください。社会人としても後輩を育て導き、共に「聖陵」同窓会の輪を広げていきましょう!ご協力よろしくお願い申し上げます。

連絡先 E-mail syushoku@morioka-u.ac.jp

かわら版下さる。
盛岡大学のホームページ
<http://www.morioka-u.ac.jp/>

事務局だより

現在、事務局では聖陵同窓会のホームページ上から住所・氏名変更等を行うことのできるシステムを構築しているところです。入力画面 자체はほぼ完成していますが、大事な情報を扱うわけですからセキュリティに万全を期すためのテスト作業を続けている状況です。今年の半ばには安定運用

できるようにしたいと思いますので、運用開始の際は、ぜひご利用ください。
これとあわせてのお願いになりますが、同窓会員の中には既に連絡がとれなくなっている同窓生がかなり存在します。クラス会やサークルでのO B・O G会、地域での同窓生の集まりなどの機会にはぜひ縦、横の連絡を密にしていただいて、同窓会事務局へもフィードバックしていただければ非常に助かります。よろしくお願ひいたします。
[同窓会ホームページURL](http://www.morioka-u.ac.jp/seiryouban/index.html)

平成17年度收支報告

★収入の部

項目	予算額	決算額
縁越金	184,800	184,800
入会金	—	—
終身会費	3,750,000	3,310,000
雑収入	9,000	9,602
特定預金取崩収入	97,902	97,902
特定基金取崩収入	1,000,000	1,000,000
合 計	14,041,702	13,602,304

★支出の部

項目	予算額	決算額
事業費	11,297,902	11,043,243
事務費	100,000	1,155
通信費	600,000	521,130
会議費	50,000	1,176
慶弔費	50,000	15,000
旅費交通費	100,000	31,000
財政基盤積入支出	1,500,000	1,500,000
予備費	443,800	—
合 計	14,041,702	13,112,704
縁越金	0	489,600
合 計	14,041,702	13,602,304